

編集後記

あけましておめでとうございます。

令和最初の新年を迎えました。そして、今年は東京オリンピックの年です。数年前から2020の数字はVISION(ビジョン)2020などさまざまな場面で耳にし、また使ってきましたが、あっという間に2020年になってしまいました。中長期戦略として掲げたVISION 2020の進捗はいかがでしょうか。

そして7月からはTOKYO 2020が開催されます。東京はかなりの混雑が予想され、例年開催される研究会なども会場やホテルの確保が難しく延期される場合が多いようです。日本眼科学会と日本眼科医会は「アイするスポーツプロジェクト」を通して、視覚障がい者スポーツへの理解を深め、QOL向上を支援する活動を行っています。昨年の日眼ではゴールボールを、臨眼ではブラインドマラソンの体験会を企画・開催し、多くの方の参加がありました。今年の日眼ではゴールボール体験会が予定されています。パラリンピックの前にぜひ体験なさってください。

さて、新年最初の特集は、まさに時代の潮流となっている digitally-assisted surgery (heads-up surgery) や AI の手術への応用など「デジタル化が進む眼科手術」です。これらの装置は比較的高額であることから、導入する際に費用対効果の検討が必要です。現在導入を検討している先生方には大変参考になる内容ですし、また使用経験の乏しい先生にとっても新しい眼科手術の流れを理解できる特集になっています。

総説は酒井 寛先生による「PACD とは？」と川瀬和秀先生による「緑内障患者におけるロービジョンケア」です。視野障害の進行を確認する段階になったら早めにロービジョンケアについて考える必要があるのだと感じました。そして「網膜橋渡し研究アップデート」と「白内障手術のトラブルシューティング」など、内容豊富な令和2年最初の『眼科』です。ぜひお役立てください。

本年も『眼科』をよろしくお願いいたします。

(飯田知弘・記)

編集：富田剛司・坪田一男・後藤 浩・飯田知弘・雑賀司珠也・門之園一明・石川 均
編集顧問：所 敬・小口芳久・臼井正彦・澤 充・谷原秀信・岸 章治・三村 治・飯島裕幸

「眼科」 第62巻 第1号 1月号

2020年1月5日発行（毎月1回5日発行）

定価（本体2,800円＋税）

年間講読料金 定価（本体42,100円＋税）

〔年間13冊（臨時増刊号を含む）の誌代〕

〔年間予約購読者に限り送料無料〕

発行所 金原出版株式会社

発行者 福村直樹

〒113-0034 東京都文京区湯島 2-31-14

Tel 03 (3811) 7165 [編集室直通]

Tel 03 (3811) 7184 [営業部直通]

FAX 03 (3813) 0288

ホームページ <http://www.kanehara-shuppan.co.jp/>

振替口座 00130-1-191269

印刷所 横山印刷株式会社 Tel 03 (3622) 6161

広告申込先 福田商店 Tel 06 (6941) 5600

・本誌に掲載する著作物の複製権、翻訳・翻案権、上映権、譲渡権、公衆送信権（送信可能化権を含む）、貸与権、二次的著作物への利用に関する原著作者の権利は、金原出版株式会社が保有します。

・JCOPY <出版者著作権管理機構 委託出版物>

本誌の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に、出版者著作権管理機構（TEL：03-5244-5088、FAX：03-5244-5089、e-mail：info@jcopy.or.jp）の許諾を得てください。